

第四十一代第八普通科連隊長兼ねて米子駐屯地司令 一等陸佐 阿部 正昭 着任



よなび

第611号
令和5年3月発行
電子版第68号

「地域と共に」



旅団長からの紹介



巡 閲



連隊長着任



記者会見

また、幹部挨拶、状況報告が行われ、駐屯地内を巡視し部隊の状況等を確認された。

阿部一佐は、大分県出身で経歴については、第四十普通科連隊（小倉）、第七次イラク復興支援群、第四十普通科連隊（小倉）、国際活動教育隊（駒門）、富士学校普通科部（富士）、第十三普通科連隊中隊長（松本）、陸上幕僚監部防衛部、陸上幕僚監部法務官付（市ヶ谷）、富士学校総務部（富士）、統合幕僚監部首席法務官付法務班長（市ヶ谷）等数々の部隊を歴任し、この度着任した。



状況報告

着任の辞
命により第八普通科連隊の指揮を執る。

伝統のある、そして、山陰の防衛の要である第八普通科連隊で勤務できることを光栄に思う。

今皆の雄姿を見て期待が持て、安心できるという風に感じている。これからはしっかりと共に任務を遂行していく。

皆も未知の通り、安全保障環境は常に変化し、そして、我々に対する期待も益々高まっていると認識している。

そのような中で連隊は常に変化に対応し、そして任務に即応していかなければならないと認識している。

よつて私としては、今まで皆が積み上げてきたものをつかりと受け継いでいき、そしてよりよく仕事をしたいという覚悟で皆を率いていく。

皆は今やるべきこと、何が必要かを常に考え、実行に移し、やり遂げてもらう。これを要望する。

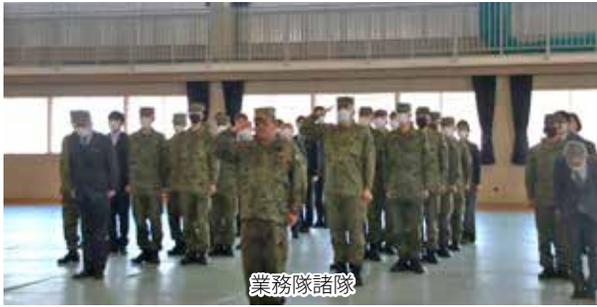
まずは、部隊をよく把握し、私自身がこの八連隊の仲間として受け入れられるように努力し、そして皆と一緒に歩んでいきたいと思う。よろしく頼む。



駐屯地司令からの紹介



着任の辞を述べる新業務隊長



業務隊諸隊



敬礼を受ける山根木三佐

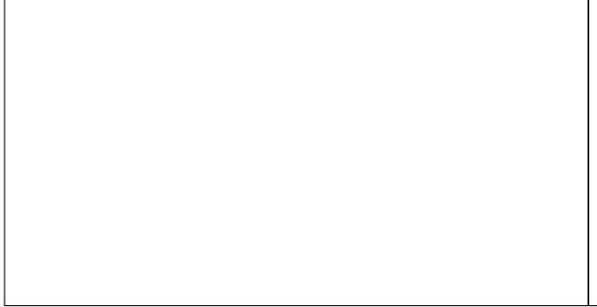
業務隊長着任行事

米子駐屯地業務隊は三月十四日、新業務隊長 二等陸佐 山根木 敏之の着任行事を行った。

着任行事において、業務隊諸隊に対し統率方針「任務完遂」要望事項「感謝と思いやり」として、着任の辞を述べた。

山根木三佐は和歌山県出身で職種は野戦特科であり、経歴は幹部候補生学校（前河原）、第三地对艦ミサイル連隊（上富良野）、第一特科群（美幌）、富士学校特科部、幹部特修課程（富士）、第四特科群（上富良野）、陸上幕僚監部 運用支援情報部（市ヶ谷）、第九特科連隊（岩手）、第八特科連隊第五大隊長（北熊本）、北部方面総監部 総務部（札幌）、第一特科団（北千歳）、西部方面総監部 総務部（健康）を経て現職となった。

今後駐屯地業務隊は新着任業務隊長山根木三佐を核心として連隊及び駐屯地を支える基盤を強化しつつ、よりよい駐屯地を目指し邁進していく。



いま、その一歩を踏み出すとき

JAPAN PRIDE

自衛官募集

詳しくは自衛隊鳥取地方協力本部まで
TEL: 0857-23-2251 または 鳥取PCO 検索

堀田一佐 離任



旅団長より紹介を受ける堀田一佐



見送りの様子

三月十日、米子駐屯地朝礼場において第四十代第八普通科連隊長 兼米子駐屯地司令一陸佐堀田 朗伸の離任式を挙行了。

堀田一佐は、統率方針「率先陣 頭指揮の焦点を立つ」要望事項「最善を尽くせ」として令和三年三月十五日から二年間にわたり第八普通科連隊長を指揮した。

練成訓練においては、旅団訓練

鳥取県知事より 感謝状贈呈



感謝状贈呈

令和四年十一月三十日、鳥取県鳥取市に所在する養鶏場において鳥インフルエンザの災害派遣要請を受けた第八普通科連隊は二百三十名の隊員を派遣し、約十一万羽のうち最も緊急性の高い二個鶏舎、合計四万羽の殺処分を二十四時間態勢で行い、その任務を速やかに完遂した。

その功績をたたえ令和五年二月一日、鳥取県知事平井治氏から米子駐屯地を訪れ感謝状を贈呈された。



全隊員に感謝の言葉を述べられる

鳥取県初となる鳥インフルエンザに伴う災害派遣任務を遂行した第八普通科連隊に対し鳥取県知事は感謝状を駐屯地に所在する隊員の前で、第八普通科連隊長堀田朗伸に贈呈し、その後隊員に対し知事は「緊急を要する時間のない戦いの中、全体の1/3もの殺処分を行っていたが、自衛隊の力を実感した」と、約六分間にわたり感謝の言葉を述べられた。その感謝の言葉に対し第八普通科連隊長 堀田朗伸は、「先般の鳥インフルエンザに伴う災害派遣では我々が県民の皆様のお役に立てたことを非常に嬉しく思います。引き続き自治体と自衛隊の連携をよりよくお願いします」と、知事の言葉に返答し、その後全隊員から敬礼を受け鳥取県知事は米子駐屯地をあとにされた。

検閲を焦点として訓練を重ね、他連隊を圧倒するとともに、方面管内の部隊や他方面隊とも訓練を重ね部隊精強化に努めた。

また、令和三年十月に倉吉市において行方不明者捜索や令和四年十二月鳥取市の養鶏場において発生した鳥インフルエンザに伴う災害派遣活動に従事し民生の安定に寄与した。

昨年、九月上旬から十一月下旬まで行われた「令和四年度部隊集合教育レシジャー」においては約三十一名に部員レシジャーを行い十五名の新たなレシジャー学生を輩出する等数々の功績を収め、この度の異動で陸上総隊司令部(朝霞駐屯地)へ異動となった。

堀田一佐の新任地での更なる活躍を祈念する。

旅団競技会

二月下旬、旅団重迫撃砲競技会及び戦技競技会が行われた。旅団重迫撃砲競技会では、あいはら演習場(滋賀県)において行われ第十三旅団に所属する三個連隊の重迫撃砲小隊が日頃の訓練成果を発揮した。実弾射撃の速度・精度を競うこの競技会において、我が第八普通科連隊は小隊長を核として、陣地進入から一連の状況下の中で行われ、精度・速度ともに高水準の射撃を実施し、前進観測班・測量班・射撃指揮所・各分隊が緊密に連携を強化し前進観測班からの射撃要求に対して正確・迅速にその目標へ対し火力発揮しその速度を發揮した。

結果、我が第八普通科連隊は日頃の訓練成果を發揮するとともに、速度・精度ともに他連隊を圧倒し、見事優勝を果たした。

実戦における迫撃砲の火力発揮までには、指揮幕僚活動において第二科が情報収集し、火力調整所が火力を運用し、重迫小隊に伝達される一連の流れとなっている。このことから、迫撃砲射撃の全ての弾薬は指揮官の意志が込められた一発である。この重要性を理解し、この結果に満足することなく、練成を積み上げ、更なる練成向上を期待したい。



120mm迫撃砲発射の瞬間



表彰式



スタートする連隊本部



各協力団体応援の様子

上と足腰の強化に努めてきた。約三年ぶりに実施された旅団戦技競技会(連隊対抗の部)では近年、第四十六普通科連隊(海田市)が連覇をしており、競技会では約四・三キロにわたるコースを各種障害の通過や実弾射撃、手榴弾投擲、担架搬送などを行いそのタイムを基準として、実弾射撃・手榴弾投擲の成果によってゴールタイムにペナルティが加算される実施要領で行われた。競技会では第十三旅団管内に所属する全部隊が参加し、各部隊ごと二個分隊七名で編成され、各部隊は日頃の訓練や練成で培ったチームワークを存分に発揮し、惜しくも選手となれなかった隊員も含めて最善を尽くし本競技会へ臨んだ。我が第八普通科連隊は、各中隊ごと最善を尽くし健闘をしたものの、連隊対抗の部において第四十六普通科連隊に次いで惜しくも第二位となった。連隊は戦技競技会参加にあたり、鳥取県家族会、隊友会、偕行社、鳥取県婦人防衛協力会、防衛モーター、駐屯地モーターの駐屯地協力団体に現地にて出走する隊員を激励や応援していただいた。旅団競技会のそれぞれの結果を踏まえ更なる能力の向上に資する成果を得ることができた。今後も連隊はより高みを目指して訓練・練成に励んでいく。

各種競技会を実施

第八普通科連隊(連隊長 一 等陸佐 堀田 朗伸)は、連隊の戦闘技術及び射撃練度向上を目的として、連隊独自の各種競技会を定期的に行いその練度の維持・向上を図っている。

一月中旬に日本原野演習場(岡山県奈義町)において81mm迫撃砲競技会及び狙撃競技会を行った。

81mm迫撃砲においては識能試験から始まり、分隊は射座において陣地工事を規定のタイム内で行い、射撃精度及び速度を競った。また、前進観測手においては状況付与により射撃要求を迅速に行い射座と

の連携を図りつつ所定の目標(正確・迅速に火力発揮を行った。その後、小隊長から陣地変換命令を下達され迅速に陣地変換を行い、後の任務へと移行した。

狙撃競技会においては課目「潜入」「射撃」の二課目の総合結果で競技が行われ、潜入する狙撃手は時間内に偽装から潜入経路を見積を迅速に行い各中隊ごと隠密に行動し、ターゲットに対し潜入射撃から離脱までを警戒員を見つかることなく任務を遂行した。実弾射撃においては移動敵に対する射撃や隠顕する複数の敵を発見か



81mm迫撃砲



狙撃銃射撃



連隊武装走競技会



連隊武装走競技会

最任上級曹長交代式

三月十日、米子駐屯地において最任上級曹長交代式及び紹介行事が行われた。

下番 最任上級曹長准陸尉 山本博典は、令和二年八月第七代最任上級曹長として「出来な



上番最任上級曹長 小谷准尉

いと思えば出来なくなり、出来ると思えば出来るようになる」を自身の座右の銘に掲げ、二年七ヶ月にわたり米子駐屯地及び第八普通科連隊の曹士の育成に尽力するとともに、部隊の精強化に努めた。



報告の様子

上番 最任上級曹長准陸尉 小谷二哉は第八代最任上級曹長として「明日への創造」を方針とし、今後は部隊精強化に努めるのはもちろんのこと、現在四十四歳と若さ溢れるその勢いと卓越した指揮能力で曹士の最上位職として、親愛の情を持って指導にあたってくれるものと確信し、これからの活躍に期待したい。



徽章の授与

部隊スキー指導官認定

第八普通科連隊(連隊長一等陸佐堀田朗伸)は、一月十日から二月十七日までの間、だいせんホワイトリゾートスキー場及び日光演習場において、令和四年度旅団部隊スキー指導官(養成・練成)集合教育を実施した。

自衛隊スキーのプロフショナルとも言える部隊スキー指導官は、技術・指導法等について十分な知識及び技能を有することが求められるため、課目試験や指導者としてのスキー実技の認定試験に合格した者のみ認定書が授与されるものであり、合格者は限定される狭き門である。

本教育に参加する各中隊等から選抜された隊員は、部隊スキー及び冬季訓練の指導者を目指し日々練成に励み、訓練は初級技術から中・上級技術へと段階的に教育が実施され、教官・助教が一体となり、部隊スキー指導官の認定試験に向けて必要な技術の修得に励んだ。

また二月六日、日光演習場において実施された訓練に、第十三旅団長陸将補松永康則が訓練視察を行い指導官を目指す養成訓練



認定試験



アキオ曳行



旅団長視察



徽章を授与される4名の隊員

今回見事合格し、認定された指導官らの新たな飛躍に期待したい。

【部隊スキー指導官に認定された隊員】

- 第八普通科連隊
 - 本管中隊 三曹 美甘 裕太
 - 三曹 野口 稜太
- 第三中隊 一曹 寺澤 明夫
- 第三八二施設中隊(富山駐屯地)
 - 三曹 山下 真尚

駐屯地各種教育を実施

第八普通科連隊は、米子駐屯地において月上旬から各種教育を行っており、それぞれの特長や技術を習得させ部隊の練度向上に努めている。

新補職者スキー訓練は、いせんホワイトリゾート及び日光演習場において訓練を実施した。

本訓練は、令和四年度連隊に配置された隊員と定期異動により積雪地部隊経験のない隊員を対象として基礎的スキー技術の訓練を段階的に実施し、積雪地における基礎的知識及びスキー技術の修得を目的に毎年実施している。教育参加者はスキー検定三級以上を目標に日々練度向上を図った。

また駐屯地内において初級から集合教育を行い、その目的は号令、命令、警報等を伝え、士気を高揚し隊容を整え、敬意を表すことであり、ラッパ吹奏には、起床、点呼、国旗掲揚、食事、消灯等様々な吹奏が行われている。参加した隊員達は、同期と切磋琢磨しながら吹奏技術の練度向上に努めた。訓練の終盤になると、国旗掲揚・降下時の君が代吹奏を実際に吹奏して、駐屯地に響かせた。

本部管理中隊の通信小隊を基幹として構成された、部隊ネットワーク通信教育については広帯域多目的無線機(通称 広多無)の接続・設定要領や有線の結線・縛

着訓練等の基礎訓練から有線構成をはじめとする応用訓練や教育の終盤には総合訓練も行われた。本教育で修得した技術を今後各通信手が必用の信念をもって今後活躍をしていく。

初級部隊偵察においては、昨年まで第十三偵察隊が行う教育に参加していたが、今年度から普通科としての偵察能力の向上を目的として部隊独自の教育を行うこととなった。

教育は偵察における一連の行動は、もちろんのこと、軽装甲機動車を使用した機動射撃を米子射場で行う等、偵察能力の基礎と情報小隊としての資質を学んだ。

新隊員特技課程は昨年九月に入隊し、今年一月上旬に米子駐屯地に到着した隊

員に対し教育を行い、軽火器としての専門的な技術や知識を身に付ける。小銃手としての行動はもちろんのこと、機関銃や個人携帯対戦車弾といった部隊装備火器や弾薬等を取扱、その知識・技術を習得させ、教育の終盤には徒歩行進訓練や戦闘訓練などを行い軽火器としての連の行動を学んだ。

第八普通科連隊は、一月から三月にかけてさまざまな各種教育を行い四月から部隊の即戦力となる隊員を育て、より一層強い連隊を目指しこれからも邁進していく。



冬季戦技訓練、バイアスロン

第八普通科連隊は、積雪寒冷地部隊として、スキー等を装着した状態で戦闘行動が実施できる部隊として指定されているため、この技術の指導者となる隊員の育成が必要であり、冬季戦技訓練隊を活動させ、各種バイアスロンの競技に参加している。

バイアスロンとは、ウィンタースポーツにおける一種競技のことで、クロスカントリースキーとライフル

射撃を組み合わせた競技で、冬季近代二種と呼ばれる。本訓練隊は、第二中隊 三好曹を教官とし日々訓練に邁進している。訓練内容は、米子駐屯地において射撃予習等を行い普段とは異なる射撃に試行錯誤を重ねながら技術の修得に励んだ。また、いせんホワイトリゾートにおいてクロスカントリースキーを主体に行い、体力・気力を強化し、スキー技術の練度



向上に努めた。

なお、同訓練隊は、国民体育大会のスキー競技会にも出場し、好成績を収めるなどバイアスロン競技の普及に努めている。これから冬季戦技訓練隊は、各種競技会で上位入賞を目指して訓練に邁進していく。

雪山で遭難したら...

地上20m

自衛隊流 サバイバル術

中部方面隊 ダーツの旅

中部方面隊 ダーツの旅

米子駐屯地は、中部方面隊が企画するYou Tubeチャンネル「中方ダーツの旅」に新たに掲載された。この企画は中部方面隊広報室が中部方面隊管内の各駐屯地を訪問し駐屯地や部隊の紹介等を行っている。

2月上旬に取材を受けた米子駐屯地は、積雪地部隊としての訓練等を行い駐屯地を紹介した。詳細は公式 You Tube チャンネル「米子駐屯地 ダーツの旅」で検索もしくはQRコードを読み込んでぜひご視聴下さい。

- ### 栄光
- 第七十八回国民体育大会冬季スキー競技会 鳥取県選考会
- 成年男子A 10Kクラシカル 第三位 第三中隊 三曹 飯島 義仁
 - 成年男子B 10Kクラシカル 第四位 第二中隊 士長 湯栗 康平
 - 成年男子C 5Kクラシカル 第一位 第一中隊 三曹 岡田 勇飛
 - 成年男子C 5Kクラシカル 第一位 第一中隊 一曹 三好 孝文
 - 第二中隊 一曹 川端 大介
 - 岩手八幡平冬季国体出場 成年男子C 5Kクラシカル

- ### 表彰
- 81mm迫撃砲競技会 優勝 第一中隊
 - 狙撃競技会 優勝 第一中隊
 - 81mm迫撃砲競技会 第五級賞詞 第一中隊 二曹 大井川 毅
 - 狙撃競技会 第五級賞詞 第三中隊 二曹 高見 修平
 - 連隊武装走競技会 優勝 第三中隊
 - 旅団重迫撃砲競技会 優勝 第八普通科連隊
 - 第五級賞詞 本部管理中隊 三曹 大國 洋祐
 - 三軒屋警備支援 第一中隊 士長 山本 悟
 - 第三中隊 士長 平川 翔大
 - 鳥取地方協力本部臨時勤務 第三中隊 二曹 福岡 寿

- 第一中隊 一曹 三好 孝文
- 第二中隊 一曹 川端 大介
- 成年男子A 10Kクラシカル 第一位 第一中隊 三曹 岡田 勇飛
- 成年男子B 10Kクラシカル 第二位 第二中隊 士長 湯栗 康平
- 成年男子C 5Kクラシカル 第一位 第一中隊 三曹 岡田 勇飛
- 成年男子C 5Kクラシカル 第一位 第一中隊 一曹 三好 孝文
- 第二中隊 一曹 川端 大介
- 岩手八幡平冬季国体出場 成年男子C 5Kクラシカル

定年退官



今年度における広報紙「よなご」の切手代を賜り、ありがとうございました。小松 昌様、高橋 勉様、澄田 豊様、常盤 重徳様、仁熊 深志様、橋本 直貴様、柏木 重康様、金田 敏夫様、横山 葵様、高柴 三寿様、岩谷 豊様の各位

編集後記

今回は山陰出身のアスリートで現在もプロ野球界で活躍するベテラン投手を紹介いたします。現在ソフトバンクホークスで先発投手を務め、メジャーリーグでも活躍をした和田毅投手です。

和田投手は鳥根県出雲市の出身で、現在41歳のベテラン投手であり松坂世代の最後の現役選手とも呼ばれています。和田投手は小学1年生から野球を始め中学校卒業まで出雲市で過ごしました。高校は親元を離れ、現在でも強豪校である鳥根県に所在する浜田高校へ進学します。浜田高校は過去に近鉄バファローズ(現オリックスバファローズ)、日本ハムファイターズや東北楽天イーグルスで監督を務めた梨田昌孝監督の母校でもあり前広島東洋カープ監督の佐々岡真司さんも浜田市の出身でもあります。そんな名選手を多数輩出し、強豪校である浜田高校では2年生の時にテスト時に甲子園に出場し、3年生の時には甲子園ベスト8まで勝ち進みました。その後早稲田大学に進学すると、その才能をさらに開花させ早稲田の「ドクターK」と呼ばれ活躍をしました。プロ入り後はルーキーながら先発ローテーションの一角を担い、14勝を挙げ新人王を獲得する活躍を見せました。その後は開幕投手や、アテネオリンピック、WBC等で活躍をシメジャーリーグでは5年間プレーし日本球界に復帰をしました。現在も41歳のベテランらしい活躍をみせ5月には自己最速となる149km/hを記録するなど日米通算150勝を達成しました。そんな和田投手の母校である浜田高校は去年の夏、鳥根大会を制し18年ぶりとなる夏の甲子園出場を決めました。私も小学校・中学校と野球をしていた経験があり地元である浜田高校が甲子園に出場するということが和田投手が先発した試合を観戦し甲子園球場で浜田高校を応援したことを今でも覚えています。皆さんもぜひ和田投手を応援し山陰をスポーツで盛り上げていきましょう。

